

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-166	高等学校	地理歴史	地理A	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地A 309	基本地理A		

① 編修の趣旨及び留意点

教育基本法の第1条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とあります。本教科書は、教育基本法および学校教育法の趣旨を踏まえ、高等学校学習指導要領「地理A」に示された目標・内容・内容の取り扱いに則り、以下の趣旨に基づいて編修しました。

○ 地球規模で考える～ Think Globally

第1章「球面上の世界」と第2章「自然・生活・文化と私たちの暮らし」では、人・物・情報のつながりや、自然環境、経済・文化を地球規模でとらえて学習します。また、第3章「世界各地の生活・文化」では、多様性のある世界各地域の生活・文化を地域ごとに学習し、第4章「地球的課題」ではさまざまな地球的課題について、豊富な事例をもとに学習します。こうした学習を通して、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質といえる、地理的な知識や技能を身に付けることができます。

○ 地域で行動する～ Act Locally

第5章「生活圏の諸課題」では、第4章までの地球規模での学習で身につけた知識・技能を活用して、生活圏の諸課題について学習します。生活圏規模の調査に必要な地図・GISの技能を身につけた上で、防災学習や地域調査を通して、課題を発見し、調査し、解決に向けた方向性を見いだす力を養います。その際は、生徒自らの主体的な行動が促され、心身ともに健康な国民の育成に寄与します。



◀口絵・世界の友だちから「こんにちは」
口絵ページには、各国の生活・文化、人々の様子が読み取れる写真を、あいさつの言葉とともに掲載しました。

② 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標、学習指導要領に示された教科「地理歴史」ならびに種目「地理A」の目標を達成するために、以下の方針により編修しました。

【第1号】幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

地理Aは高等学校地理歴史科の基礎となる科目であり、地理で身に付ける知識と教養は、地理学習や歴史学習の基盤となるだけでなく、国際社会で活躍するすべての人々が身に付けるべきものであると考えます。本教科書では、幅広い分野・地域の事例を取り扱うとともに、現代社会の動向や課題について、中期的な展望を見いだせるようなトピックを取り入れました。また、身近な課題について、地図学習や地域調査を主体的に行うことを促しており、豊かな情操と道徳心、健やかな身体を養えるように配慮しました。

【第2号】個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

多様性のある世界の生活・文化を学習するにあたって、グローバルな広がりを持つものだけでなく、少数民族や地域特有の生活・文化を多く紹介し、その価値を尊重しています。また、「Think globally, Act locally」の精神のもと、地球的課題を自分のものとして意識した上で、地域の課題に取り組むよう、教科書の学習段階に応じて探求学習を取り入れました。

【第3号】正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

私たちの社会には文化・経済・自然環境という3つの側面があり、社会が発展していくためには、これらが共存していく必要があります。しかし、異なる文化や経済状況のもとで、立場や意見が対立することがあります。本教科書では、繰り返し国際協力の必要性を取り上げています。また、自然災害に備えるにあたって、自助・共助・公助の精神を説いています。こうした学習を通して、主体的に社会形成に参画する精神が養われるようにしました。

【第4号】生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

本教科書には豊富に写真を掲載しています。一つ一つの写真は、その地域のありのままの姿を正しく伝えるものを選んでいきます。また、地球温暖化や水質汚染など、危機的な状況がみられる事象については、世界で活躍する写真家・ジャーナリストによるメッセージ性のある写真を取り上げました。また、環境問題の要因やしぐみについて詳しく記述しており、自然環境を保全することの大切さを理解できるようにしました。

【第5号】伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

第1章第2節「日本の位置とひろがり」では、理解の前提となる「国家の領域」について詳しく説明しています。また、地図学習では、新渡戸稲造など国際社会の平和と発展に貢献した人物を取り上げました。第3章「世界各地の生活・文化」では、各地域の最後に日本との関係について記し、地域調査では、伝統文化を活かした観光振興の事例を取り上げています。これらにより、自国を愛し、他国を尊重する精神を身に付けられるようにしました。

③ 対照表

第1章 球面上の世界		
第1節 地球儀と地図 1. 球体としての地球 2. 時差と生活 3. 地図の歴史 4. 地図で世界を描く	全ての地理学習の基礎となる地図の見方について、地球が球面であることを踏まえて学習します。その際、地球儀ソフトを活用することで興味を喚起する一方、先人たちがどのような世界観で地図を描いてきたのかを学習し、地図に親しむ心を育みます（第1号・第5号）。	p.6 ～ 17
第2節 国と国の結びつき 1. 国家とその領域 2. 日本の位置とひろがり 3. 結びつく国家	国家とその領域について、基礎知識を身につけた上で、日本の領域と、北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる現状について、地理的・歴史的側面の双方から学習を深められるように配慮しました。（第1号・第5号）。 国家は、互いに主権を認め合い、地球規模での協調を進め、経済・資源・軍事・政治的な結びつきから様々な国際組織を形成していることを学び、国際協調の大切さについて理解を深めます（第3号）。	p.18 ～ 23
第3節 地図で見る世界のつながり 1. 観光によるつながり 2. 経済・貿易によるつながり 3. 交通・情報によるつながり	前節で地球規模での国際協調について学んだことを受け、実際に人・物・情報が世界的にどのようにつながっているかを、地図を通して大観して学習し、世界のつながりと生活との関連について考えさせます（第2号）。	p.24 ～ 29
ステップアップ 歴史を地図で読み解こう	世界で活躍し、近代日本の発展にも貢献した新渡戸稲造、野口英世を題材に、彼等の足跡を地図帳でたどることにより、地図帳に慣れ親しむとともに、歴史的な視点から世界をとらえます（第2号・第5号）。	p.30 ～ 31
第2章 自然・生活・文化と私たちの暮らし		
第1節 地形と私たちの暮らし 1. プレートと変動帯 2. 河川が作る地形 3. 海岸の地形 4. さまざまな地形	私たちが生活する地形の成り立ちについて、内的営力・外的営力の双方から学習し、長い年月をかけて形成された地形と、生活との関わりを考えます。模式図とともに写真を豊富に掲載しており、自然に対する関心を高めます。また、節末ではコラムで地形図の基礎とともに、自然地形に関連した読図ページを設けました（第4号）。	p.32 ～ 43
第2節 気候と私たちの暮らし 1. 大気の流れと気候の地域性 2. ケッペンの気候区分 3. 熱帯の自然環境 4. 乾燥帯の自然環境 5. 温帯の自然環境 6. 冷帯・寒帯の自然環境	世界の気候を区分してとらえ、それぞれの気候帯の特徴と、生活との関わりについて学習します。それぞれの気候帯の分布図・代表的な地点の雨温図とともに、特徴的な気候景観の写真を豊富に掲載しており、前節で学習した地形とともに、自然に対する関心を高めます（第4号）。	p.44 ～ 55
第3節 経済・文化と私たちの暮らし 1. 世界の農業 2. 世界の工業と商業・サービス業 3. 宗教と文化 4. 言語・民族と文化	世界の農業・工業・商業・文化について、地図や写真をもとに大観し、地誌学習の基礎となる幅広い知識を身につけることができます。また、人物の入った写真を充実させており、生活文化との関わりについて理解しやすくなっています（第1号・第2号）。	p.56 ～ 63
ステップアップ 写真を通して地理を学ぼう	景観写真から地理的な要素を読み取る方法を、段階的かつ具体的に紹介しています。これにより、写真から生活文化や自然環境の特徴を読み取り、それらの関連性を見いだす力を身につけられます（第2号・第4号）。	p.64 ～ 65

第3章 世界各地の生活・文化		
全体 第1節 中国 第2節 朝鮮半島 第3節 東南アジア 第4節 南アジア 第5節 中央アジア・西アジア・北アフリカ 第6節 サハラ以南アフリカ 第7節 ヨーロッパ 第8節 ロシア 第9節 アングロアメリカ 第10節 ラテンアメリカ 第11節 オセアニア	世界各地の生活・文化について、その地域の自然環境や歴史を踏まえて学習します。各節の先頭にはその地域を象徴する景観写真を大きく掲載し、2ページ目には、主要な自然地名の入った地図を掲載しました。これにより、各地の生活・文化を学ぶにあたり、地域の特徴を概観できるようになっています。また、各地域の生活の基盤となる産業と、経済発展の現状について詳しく記述するとともに、今後の中期的な動向を見渡せる、最新的话题を積極的に取り入れました(第1号・第4号)。 節末には、その地域と日本との関係を取り上げ、さらに具体的な事例をコラムに掲載しました。これにより、他国を尊重する態度を養うことに寄与します(第5号)。	p.66 ～135
ステップアップ 旅行雑誌の編集部員になろう	各節で学習してきたことをふまえて、「国調べ」学習を行うページです。一人一人が異なる国について自主的に学習することをうながしており、創造性を培い、自主自律の精神を養うことができます(第2号・第5号)。	p.136 ～137
第4章 地球的課題		
第1節 人口問題 1. 人口増加が続く世界 2. 人口増加地域がかかえる課題 3. 人口停滞地域がかかえる課題	人口増加地域と人口停滞地域では、それぞれ異なる課題をかかえており、その課題と、解決に向けた方向性を示しています。その際、リプロダクティブヘルス/ライツや男女共同参画社会について取り上げ、男女がともに協力し課題解決にあたる必要性を説いています(第3号)。	p.138 ～141
第2節 食料問題 1. 食料問題とはなにか 2. 食料が不足している地域 3. 食料増産にともなう課題	世界全体で見ると十分に生産されているはずの食料が、一方では不足し、一方では過剰になっている現状について、事例とともに紹介しています。日本が輸入する食料について、フードマイレージという指標を用いることにより、主体的に考えさせます(第1号・第3号)。	p.142 ～145
第3節 居住・都市問題 1. 都市への人口集中と都市問題 2. 発展途上国での居住・都市問題 3. 先進国での居住・都市問題と再開発	都市への人口集中により発生するさまざまな問題について、都市と農村、都市と郊外との関係を取り上げ、地理的に考察します。また、コンパクトシティやLRT・BRTなど、現在の都市再開発の動向を積極的に取り入れ、社会形成に参画する態度を養います(第2号・第3号)。	p.146 ～149
第4節 資源・エネルギー問題 1. 暮らしを支える資源・エネルギー 2. 鉱物資源とリサイクル 3. エネルギー資源の現状と課題	鉱物・エネルギー資源の特徴や偏在性について地理的に考察する一方、鉱物資源のリサイクルや、再生可能エネルギー・スマートグリッドの活用により環境への負荷を減らす可能性を幅広く紹介し、具体的な課題解決の方向性を考えさせます。(第1号・第4号)。	p.150 ～155
第5節 環境問題 1. 国境をこえる環境問題 2. 熱帯林の減少と砂漠化 3. 地球温暖化とその影響	大気汚染、熱帯林の減少・砂漠化、地球温暖化について、写真・地図・模式図により、緊急な対策が必要なものとしてとらえています。一方で、課題解決の妨げとなる利害の対立について紹介し、市民としてできることについても考えさせます(第2号・第4号)。	p.156 ～161
ステップアップ 持続可能な社会とはなにか?	地球的課題は相互に関連し、その解決に向けてさまざまなジレンマに直面することを具体的な事例により紹介し、持続可能な社会に向けた課題解決方法について、主体的に考えることを促しています(第1号～第5号)。	p.162 ～163

第5章 生活圏の諸課題		
第1節 地図とGISの利用 1. 身のまわりにあるさまざまな地図 2. 地理空間情報とGPS・GISの利用 3. 紙の地形図と電子地形図	生活圏の諸課題について調べる際に必要になる、さまざまな地図やGISについて、その仕組みと活用事例を紹介しています。また、電子化によりその役割が大きく変化した地形図について、整備の歴史的過程と表現の変化について整理しました。これにより、次節以降での学習にあたって、地形図やGISを活用する基礎を身に付けさせます(第1号・第2号)。	p.164 ～169
ステップアップ アニメを通して地図を読もう	人気アニメを題材として、アニメに登場した場所で写真を撮影し、撮影地点をGIS上で地図化する作業を紹介しています。生徒の身近な題材を通じた地図作りにより、地域調査の基礎を身に付けさせるとともに、自然や地域の伝統を愛する心を育みます(第2号・第5号)。	p.170 ～171
第2節 日本の自然環境と防災 1. 日本の地形の特徴 2. 日本の気候の特徴 3. 風水害と防災 4. 火山の噴火と防災 5. 地震・津波と防災	日本の地形や気候といった自然環境の特色を学習した上で、人間生活に被害をもたらす自然災害について、風水害、火山の噴火、地震・津波に分けて体系的に学習します。自助・共助・公助の精神をもち、地図を活用して主体的に行動する力を身に付けられるよう、ハザードマップを豊富に掲載しています(第3号・第4号)。	p.172 ～187
ステップアップ 地図を防災と復興に役立てよう	地図は、災害発生前、災害発生時、復興時のいずれの場面でも、情報を整理し、現状を包括的に把握する手段として役立ちます。現在活用されている事例をもとに、地図の具体的な活用方法を示しています(第3号)。	p.188 ～189
第3節 生活圏の諸課題と地域調査 1. 地域的課題の発見 2. 地域調査のテーマと目的の設定 3. 事前調査～資料の収集・分析 4. 現地調査「観光地としての長崎の魅力アップさせる取り組み」 5. 調査結果の整理・分析・考察	身近にみられるさまざまな課題について、地域調査を通して解決のための方法を考えます。ここでは、長崎県長崎市を事例として、観光地としての現状と課題を把握し、現地調査を行う方法を、具体的に紹介しています。その際、地図やGIS、デジタルカメラを活用した分布図作りの手法を取り入れ、他地域でも生徒が自主的に応用できるようにしました(第2号・第5号)。	p.190 ～195
ステップアップ 地域調査の結果を発信しよう	第3節での地域調査の結果を、報告書・ポスター・プレゼンテーションソフトを用いて発表する方法を紹介しています。その際、課題解決方法を生徒が提案する形を取り入れ、主体的な調査を促しました(第2号・第5号)。	p.196 ～197

④ 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 高等学校の地理歴史学習の基礎となる知識・技能を確実に身に付けられるよう、内容の充実を図りました。
- 平易な文章表現をこころがけるとともに、振り仮名を豊富につけ、太字・参照ページ等を適切に配置しました。
- 本文やそのテーマに関連する写真・主題図を豊富に掲載し、視覚的にも、その節で学習する事項が明確に理解できるようにしました。
- 生徒が自学自習しやすいよう、写真の説明文や用語解説を充実させました。
- カラーユニバーサルデザイン(CUD)に配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう心がけました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-166	高等学校	地理歴史	地理A	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地A 309	基本地理 A		

① 編修上特に意を用いた点や特色

地理Aの目標は、学習指導要領には「現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とあります。

本教科書は、こうした目標や、学習指導要領の総則に示す教育の方針を達成するため、地理Aの内容・内容の取扱いに準拠し、特に以下の点に意を用いて編修しています。

② 必要な地理的知識が十分に身に付く内容

内容の取扱い(1)アには、「基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること」とあります。高校生として必要な地理的知識を過不足なく学習できる内容構成を心がけました。また、生徒が自学自習できるよう、写真の説明や用語解説を充実させました。

用語解説

① コンビナート
資源を総合的・合理的に利用するため、資源と関係ある産業・企業を結びつけた生産形態をいう。

② 計画経済
中央政府によって計画的に管理・運営される経済体制をいう。平等な資源配分を実現する社会をめざす。

最新事情を反映した主題図・写真



2 ロシアの経済発展と課題

資源大国 ロシアは世界でも有数の資源大国で、石炭・原油・天然ガス・鉄鉱石・ダイヤモンドなど、主要な鉱産資源の産出量は世界の上位に位置する。ロシアは、豊富な鉱産資源を背景として世界経済にも影響を与えている。原油や天然ガスの大部分はシベリア西部やサハリンで産出し、主要な鉱物資源はウラル山脈や、東部と南部の山岳地域に分布している(写真)。こうした地下資源の開発は、以前は国土の広さや寒冷な気候にはばまれて困難であったが、シベリア鉄道やバム鉄道(バイカル＝アムール鉄道)などの鉄道網や、長距離のパイプライン(写真)、港湾施設などが整備され、自国の工業地帯への運搬や輸出がしやすくなった。

産業・経済の発展 ソ連時代の工業はさまざまな資源を結びつけたコンビナート方式で、ウラル山脈の南部やシベリアの南部などに重工業地帯が作られた(写真)。しかし、社会主義国家であるソ連の解体による計画経済から市場経済への転換は、ロシア経済に大きな混乱をもたらした。現在では、市場経済化や外国資本の進出によって、精密機械工業や先端技術産業などがモスクワなど大都市地域で発達している。さらに、生産活動の民営化により第3次産業が急成長し、スーパーマーケットなどの商業施設が各地でみられるようになった。ヨーロッパロシアなどでは外国資本の進出が盛んだが、ほかの地域との経済格差が大きく、その是正が今後の課題である。



3 これからのロシアと日本

日本とロシアの貿易 ロシアは2012年に世界貿易機関(WTO)に加盟し、日本とロシアの貿易量は大きく増加している。日本はロシアへ中古車を含む乗用車や自動車部品をおもに輸出し、化石燃料や、かに・たらさけなどの魚介類などを輸入している(写真)。

環日本海としての交流 近年、日本海をはさんでの交流が、ロシアの極東と日本の日本海沿岸の間で盛んである(写真)。例えば、新潟とハバロフスク、秋田とウラジオストクなど姉妹都市の交流も多く、船舶や航空機の定期便も開設され、人や物の交流が進んでいる。また、シベリア鉄道は、日本とヨーロッパを結ぶ海陸一貫の国際輸送方式であるランドブリッジの経路となっており(写真)、日本とロシアのつながりは強まる傾向にある。一方、日本とロシアの間には北方領土問題があり、平和条約が締結されていないなど課題もあるが、こうした人や物の交流は重要である。

ツナガリジャパン ロシアでブームの和食レストラン
社会主義国時代は、和食はおもに富裕層を対象としたものであった。しかし、1990年代以降は、大都市で次々と和食レストランが開店した。特に寿司が人気となり、今ではモスクワ市内だけで2000店に達するともいわれている。最近では、日本人経営のうどん店が開店して話題になるなど、店数が増えつつある(写真)。素材の味を活かすのが和食で、日本とは違った環境のなかで食材を調達することには困難もあるが、健康志向の高まりも背景として、和食ブームは衰える気配がない。

4 これからのロシアと日本

日本とロシアの貿易 ロシアは2012年に世界貿易機関(WTO)に加盟し、日本とロシアの貿易量は大きく増加している。日本はロシアへ中古車を含む乗用車や自動車部品をおもに輸出し、化石燃料や、かに・たらさけなどの魚介類などを輸入している(写真)。

環日本海としての交流 近年、日本海をはさんでの交流が、ロシアの極東と日本の日本海沿岸の間で盛んである(写真)。例えば、新潟とハバロフスク、秋田とウラジオストクなど姉妹都市の交流も多く、船舶や航空機の定期便も開設され、人や物の交流が進んでいる。また、シベリア鉄道は、日本とヨーロッパを結ぶ海陸一貫の国際輸送方式であるランドブリッジの経路となっており(写真)、日本とロシアのつながりは強まる傾向にある。一方、日本とロシアの間には北方領土問題があり、平和条約が締結されていないなど課題もあるが、こうした人や物の交流は重要である。

ツナガリジャパン ロシアでブームの和食レストラン
社会主義国時代は、和食はおもに富裕層を対象としたものであった。しかし、1990年代以降は、大都市で次々と和食レストランが開店した。特に寿司が人気となり、今ではモスクワ市内だけで2000店に達するともいわれている。最近では、日本人経営のうどん店が開店して話題になるなど、店数が増えつつある(写真)。素材の味を活かすのが和食で、日本とは違った環境のなかで食材を調達することには困難もあるが、健康志向の高まりも背景として、和食ブームは衰える気配がない。

写真の説明や用語解説を充実

本文の内容を補完

最新の事情に配慮しつつ、必要な知識が身に付く本文の記述

② 様々な種類の地図を掲載

内容の取扱い(1)イでは、「地図の読図や作図など地理的技能を身に付ける」ことが求められています。これに対応し、さまざまな種類の地図を掲載しました。

新しい図式の地形図

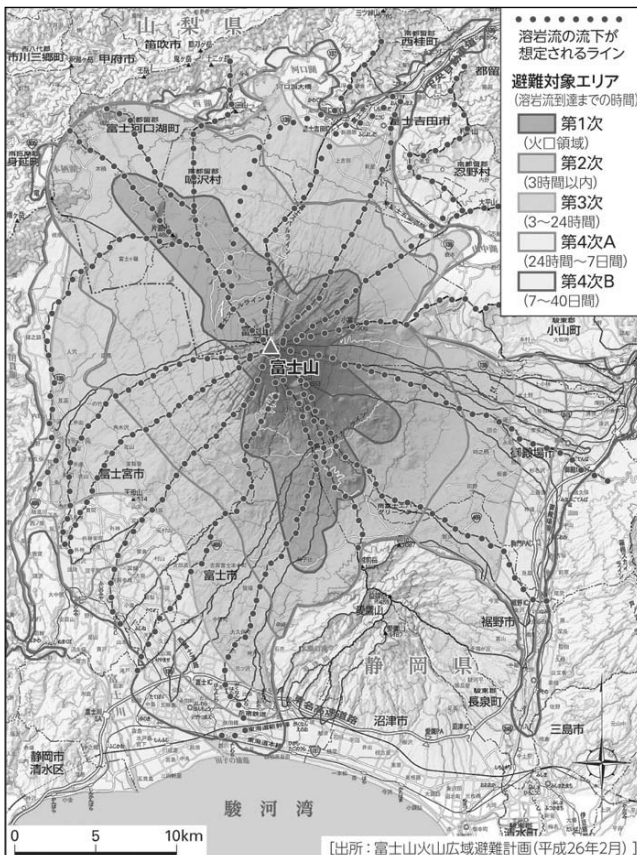
インターネットで閲覧する「地理院地図」の時代に対応した、新しい図式表現の地形図を掲載しました。



↑ p.169 「電子地形図 25000」(仙台東北部) (部分)

ハザードマップ(防災地図)

自然災害の種類ごとに、代表的なハザードマップ(防災地図)を掲載しました。



↑ p.181 「噴火ハザードマップ」(富士山の広域避難計画)

各地域の自然地図

第3章「世界各地の生活・文化」では、各地域の先頭に、地図帳と同じ色彩表現を用いて、代表的な自然地名を入れた地図を掲載しました。



↑ p.117 「アングロアメリカの地形」

地図を活用した地域調査

地域調査に地図や GIS, GPS 付きデジタルカメラを活用し, GIS を用いて地図を作る例を掲載しました。




↑ p.195 「長崎市の地域調査地図」(部分)

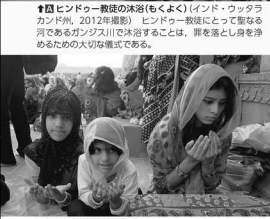
◎ 豊富な写真によるビジュアルな構成

内容の取扱い(1)イでは、「衛星画像や空中写真、景観写真の読み取り」などの地理的技能を身に付けることが求められています。これに対応し、豊富な写真を教科書の中に掲載しました。また、写真の選定にあたっては、その地域の自然環境や人々の生活・文化などの要素が読み取れる「地理写真」であるよう心がけました。


第4節 南アジア



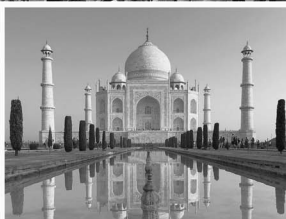
↑ **インドゥー教徒の沐浴(もくよく)**(インド・ウッラカンド州、2012年撮影) ヒンドゥー教徒にとって聖なる河であるガンジス川で沐浴することは、罪を落とし身を浄めるための大切な儀式である。



↑ **イスラム教徒の女性**(パキスタン・ラホール、2013年撮影) イスラム教では、女性が肌を見せることを禁じているが、肌を露す程度には、国や民族により差がみられる。



↑ **茶のプランテーション**(スリランカ・キャンディ近郊、2010年撮影) 茶の栽培は、年間雨量が多く水はけが良く、気温の日較差が大きい丘陵地で行われている。



↑ **ターザマハル**(インド・ウッラルプラデシュ州、2014年撮影) その白と左右対称の美しさから、世界有数の観光地となっている。17世紀の中頃、ムガル帝領の第5代皇帝シャール・ジャハーンが、亡き妻の廟(びょう、おたまや)として建てたもので、世界遺産に登録されている。

— **世界見聞録** —

- 南アジアでは、ヒンドゥー教・イスラム教・仏教など多様な宗教が各国の文化に特徴を生み出している。
- また、モンスーンやサイクロンは、農業や人々の生活に大きな影響を与えている。人口の多い地域でもあり、経済の発展には国によって差がみられる。

86

↑ p.86 「世界各地の生活・文化」先頭ページの例
「世界各地の生活・文化」では、先頭ページに、その地域の特徴的な景観や活発な人間生活が読み取れる写真を、大きなサイズで掲載し、その解説も充実させました。

→ p.154 「再生可能エネルギー」

最新の動向を示すページでは、資料性が高く、撮影年次の新しい写真を大きく掲載し、詳しい解説を記述しました。



↑ **カルスト地形**(イタリア・グランサッソ国立公園、2013年撮影) 地表に露出している灰色の岩が石灰岩である。写真の中央部にはドリネとよばれるくぼみがみられる。

↑ **タワーカルスト**(中国・広西チワン族自治区・桂林、2012年撮影) 約2億年前に隆起して隆起した石灰岩の侵食が激み、独特の形をしたカルスト地形が生まれた。

↑ **環礁**(フランス領ポリネシア・ボラボラ島、2003年撮影) 中央の隆起とサンゴ礁の間に環礁が形成されている。水深の浅いところと深いところが、海の色が異なって見える。

↑ **環礁**(フランス領ポリネシア・トゥアモトゥ諸島、2005年撮影) 中央にあった陸地は、完全に海に没している。

カルスト地形 酸性の水が石灰石などを化学的に侵食することを**溶食**という。雨や地下水が石灰岩を溶食することにより、**カルスト地形**が発達する(写真)。溶食が進むと、地表ではドリネ[※]とよばれるすり鉢状の地形ができ(写真)、地下では**鍾乳洞**が形成される。さらに溶食が進み、台地の一部が取り残されると、**タワーカルスト**となる(写真)。こうしたカルスト地形の独特な景

↑ **カルスト地形の模式図**

※ドリネ

↑ **環礁**

↑ **環礁**

↑ **環礁**

↑ p.39 「地形」(カルスト地形・サンゴ礁)

本文と関連する特徴的な地形を、鳥瞰的な写真や衛星画像を活用してビジュアルに示しました。



↑ **太陽光発電**(神奈川県伊豆市、2013年撮影) 太陽光を太陽電池により電力に変換する発電方法で、年間日照時間の長い地域が適しており、メガソーラーとよばれる大規模な発電所も増加している。天候により発電量が変動し、夜間は発電することが難しい。

↑ **太陽熱発電**(スペイン・セビーリヤ、2013年撮影) 中央にある集熱鏡に熱を集める方法で、太陽が発電よりコストが低く、蓄熱により夜間でも発電できるが、天候が悪いときは発電効率が低下する。気候の良い地域に多い。

↑ **風力発電**(アメリカ・カリフォルニア州、2013年撮影) 風の力で風車を回すことによって電力を生産する発電方法である。丘陵の尾や海岸線、海上など、風の強い地域では高い効率で電力を得やすいが、風況により発電量が変動する。

↑ **地熱発電**(アイスランド、2013年撮影) 火山活動の熱を利用する発電方法で、火山の多い地域では安定した発電量を得られるエネルギーである。しかし、日本の場合は、国立・国立公園などの規制があり、開発できる場所が限られている。



↑ **小麦** 比較的冷涼・乾燥した気候のもとで生育し土壌を好み、世界でもっとも広く生産される。粒にしてからパンや麺に加工して食べる。

↑ **米** 高温・湿潤な気候の地帯で栽培が多く、アジアを中心に生産される。粒のまま炊いたり焼いたりして食べる。

↑ **とうもろこし** 熱帯から冷帯まで広く栽培される。小麦・米と並ぶ三大穀物の一つで、食料用と飼料用がある。パイオ素材の原料にもなる。

↑ **大豆** アメリカが最大の生産国だが、世界各地で栽培される。油糧原料としての利用が主で、しぼりかすは飼料に利用される。

↑ **キャッサバ(マンニオ)** 熱帯からその周辺にかけて広く栽培される。根にしてから粉にし、餅や甘薯として食べる。

↑ **タロイモ** アフリカやオセアニア、中国などで栽培される。地下茎を煮る・焼く・漬くなどの加工調理をして食べる。

↑ **じゃがいも** 温帯から冷帯の地域で広く栽培される。ヨーロッパでは、主食に替るる地位にあり、焼いたり茹でたりして食べる。

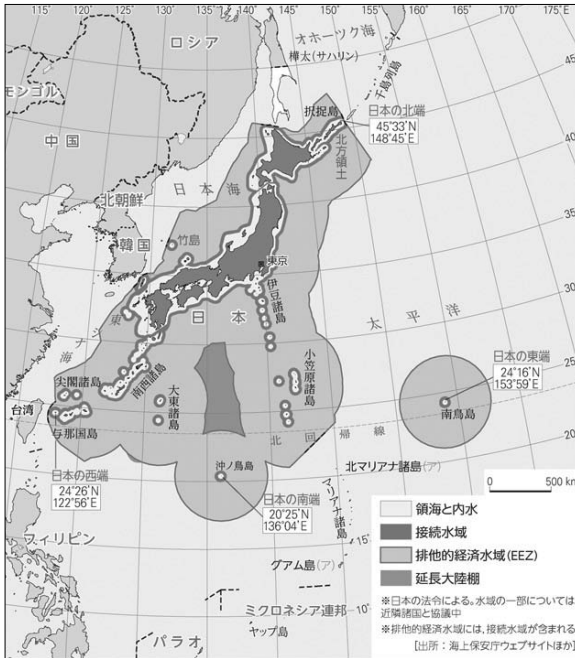
↑ **バナナ** 熱帯やその周辺で広く栽培される。生食用のほか調理用が主で、製菓や畜産にも利用される。

↑ 後見返し「農産物ギャラリー」(部分)

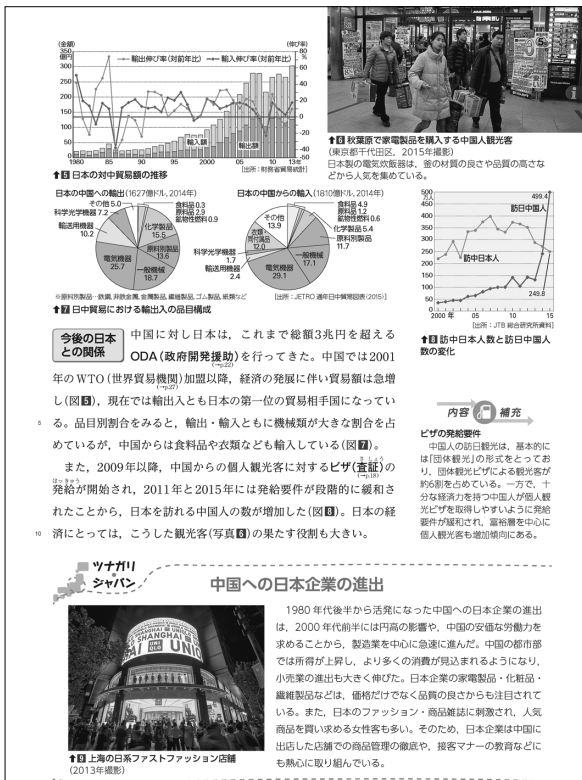
地理学習に必要な代表的な農作物の栽培写真を、全16枚掲載しました。

④ 日本に関する記述の充実

内容の取扱い(1)オには、「各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること」とあります。これに対応し、各章において日本と関連づけた記述を充実させました。



↑ p.20 図「日本の領域と排他的経済水域・大陸棚」ランベルト正積方位図法により、日本の領域について正確な面積の地図で読み取ることができます。領海・接続水域・延長大陸棚についても示しました。



↑ p.73「第3章第1節 中国」節末ページ 第3章「世界各地の生活・文化」では、各地域の節末に、経済・貿易や観光・文化など、その地域と日本との関係について、具体的に記述しました。

ステップアップ ① 歴史を地図で読み解こう

世界で学び、日本と世界に貢献した日本人

～新渡戸稲造と野口英世～

新渡戸稲造(1862～1933年)と野口英世(1876～1928年)は、世界に学び、日本と世界に貢献した人物である。2人は、ともに日本の紙幣(日本銀行券)に肖像画が描かれたことでも知られる。ここでは、地図を通してその足跡をたどってみよう。

新渡戸稲造(1862～1933)

出身地：岩手県岩手郡(現：盛岡市)

札幌農学校に学ぶ。同期に内村鑑三らがいる。1883年東京大学入学。入学試験で「太平洋の橋になりたれ」と述べたという。1884年渡米。1891年札幌農学校教授になるが、体調を崩して退官。静養中に「Bushido」を執筆。後藤新平に招かれ、台湾総督府で砂糖産業の育成にあたった。教育にも力を入れ、第一高等学校校長、東洋協会専門学校学監、東京女子大学学長などを歴任。また、郷土の地理・習俗・植物を調査・研究する「郷土会」を主宰した。1920年国際遊園設立とともに事務局長に就任。発展に貢献した。辞任後、第2次世界大戦前の厳しい時代において、「太平洋の橋」となるべく奔走した。

【出典：『新渡戸博士遺集』】

野口英世(1876～1928)

出身地：福島県楢葉町

幼少時に患った瘧疾で左手に大欠損を負う。15歳のとき手術を受け、不自由ながらも左手が使えるようになる。これをきっかけに医学の道に進み、1897年に医師免許を取得。北里柴三郎が所長を務める伝染病研究所に勤務する。1899年国際遊園の一角として満洲に赴任するが、1900年義和團事件が起こり、混乱を避けて韓国。翌年渡米し、アメリカでは皮膚病の研究などで成果を上げる。1918年以降、エウアドルやメキシコ、ブラジルなど南米各地で炭疽菌の研究に従事。ペルーの風土病であるカオリン病の研究に成果を上げた。1928年、アメリカ、ガーナで炭疽菌の研究中に感染し、亡くなった。

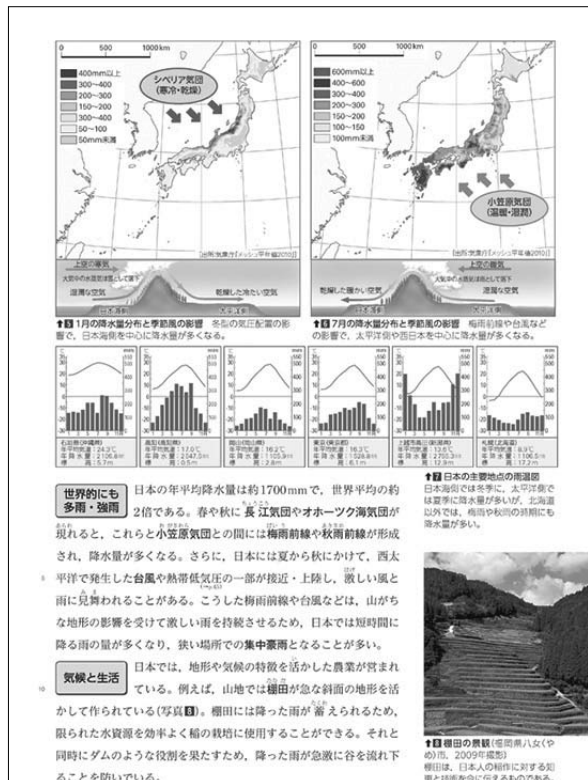
【出典：『少年野口博士』】

1. 右ページの年譜には、新渡戸稲造と野口英世のゆかりの地が赤の下線で示されている。それらの場所を地図で確認し、図中の白地図に記入しよう。

2. 野口英世はその功績でさまざまな国で表彰(勲章、名誉博士号の授与など)されている。それらの国を地図で確認し、図中の白地図に*印をつけよう。

スペイン、デンマーク、フランス、スウェーデン、エウアドル、ペルー、日本、アメリカ

↑ p.30 ステップアップ①「歴史を地図で読み解こう」近代において国際社会の平和と発展に貢献した新渡戸稲造と野口英世を題材に取り上げ、地図帳で足跡をたどるページを設けました。



↑ p.175「第5章第2節 日本の自然環境と防災」防災学習を行う前段階として、日本の地形と気候の特徴を整理しており、第2章の「地形」とあわせ、日本の自然環境についての基礎知識をおさえられます。

② 対照表

教科書の単元構成		該当箇所	配当時数	学習指導要領の内容
□絵 世界の友だちから「こんにちは」		前1～前2		
□絵 世界遺産―一次世代へ受け継ぐ景観―		前3～1		
はじめに～地理を学ぶための五つの技能		2		
第1章 球面上の世界	第1節 地球儀と地図	6～17	4	(1)ア
	第2節 国と国の結びつき	18～23	2	
	第3節 地図で見る世界のつながり	24～29	2	
	ステップアップ ① 歴史を地図で読み解こう	30～31	1	
第2章 自然・生活・文化 と私たちの暮らし	第1節 地形と私たちの暮らし	32～43	4	(1)イ
	第2節 気候と私たちの暮らし	44～55	4	
	第3節 経済・文化と私たちの暮らし	56～63	3	
	ステップアップ ② 写真を通して地理を学ぼう	64～65	1	
第3章 世界各地の 生活・文化	第1節 中国	66～73	3	(1)イ
	第2節 朝鮮半島	74～77	1	
	第3節 東南アジア	78～85	2	
	第4節 南アジア	86～91	2	
	第5節 中央アジア・西アジア・北アフリカ	92～97	2	
	第6節 サハラ以南アフリカ	98～103	2	
	第7節 ヨーロッパ	104～111	3	
	第8節 ロシア	112～115	1	
	第9節 アングロアメリカ	116～123	3	
	第10節 ラテンアメリカ	124～129	2	
	第11節 オセアニア	130～135	2	
	ステップアップ ③ 旅行雑誌の編集部員になろう	136～137	1	
第4章 地球的課題	第1節 人口問題	138～141	2	(1)ウ
	第2節 食料問題	142～145	2	
	第3節 居住・都市問題	146～149	2	
	第4節 資源・エネルギー問題	150～155	2	
	第5節 環境問題	156～161	2	
	ステップアップ ④ 持続可能な社会とはなにか？	162～163	1	
第5章 生活圏の諸課題	第1節 地図とGISの利用	164～169	2	(2)ア
	ステップアップ ⑤ アニメを通して地図を読もう	170～171	1	
	第2節 日本の自然環境と防災	172～187	7	(2)イ
	ステップアップ ⑥ 地図を防災と復興に役立てよう	188～189	1	
	第3節 生活圏の諸課題と地域調査	190～195	2	(2)ウ
	ステップアップ ⑦ 地域調査の結果を発信しよう	196～197	1	
おわりに～これからも続く、地理を学ぶ楽しみ		198		
□絵 「農産物ギャラリー」		後2～後3		
配当時数の計			70	